

※算数ではA, B問題とも関心・意欲・態度を評価する問題はありません。また、A問題では数学的な考え方、B問題では知識理解を評価する問題がありません。

算数A:主として知識

分類	区 分	平均正答率(%)		
		立野小	東京都	全国
内容別	数と計算	86.3	82.9	82.8
	量と測定	83.3	78.6	78.5
	図形	86.8	82.8	81.3
	数量関係	74.8	67.7	64.2
観点別	数学的な考え方			
	表現現・処理	83.2	78.9	77.7
	知識・理解	85.5	81.3	80.8
	全体平均正答率(%)	84.0	79.7	78.7

算数B:主として活用

分類	区 分	平均正答率(%)		
		立野小	東京都	全国
内容別	数と計算	64.1	59.5	55.8
	量と測定	69.2	65.5	59.9
	図形	67.9	60.2	56.4
	数量関係	68.9	59.5	56.8
観点別	数学的な考え方	54.6	50.6	46.1
	表現現・処理	86.5	78.9	76.5
	知識・理解			
	全体平均正答率(%)	63.7	58.7	54.8

《考察》

A問題は全体としては十分満足できる水準にありますが、内容で見ると【数量関係】にはやや課題があります。毎年、数量関係の中では特に割合の問題を苦手とする傾向が見られ、これまでも指導法の改善を試みてきました。今後は数直線や線分図などを使って問題を視覚的に把握させる指導を徹底するなど、児童にとってより分かりやすい授業をめざして改善を進めていきたいと考えています。

《考察》

本校児童の場合、【数と計算】領域の問題が他と比べて正答率が低くなっています。その中で最も正答率が低かった(20%)のは、買い物で1方を買うと他方が買えない理由を説明する問題でした。これまで、教科書にはこのように理由を説明する問題はありませんでした。今後は授業の中で式と答えだけでなく、理由や根拠を記述させる指導も積極的に取り入れる必要があります。